

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢ひてエ

雑報 繁文

No. 714

2025年 9月12日

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

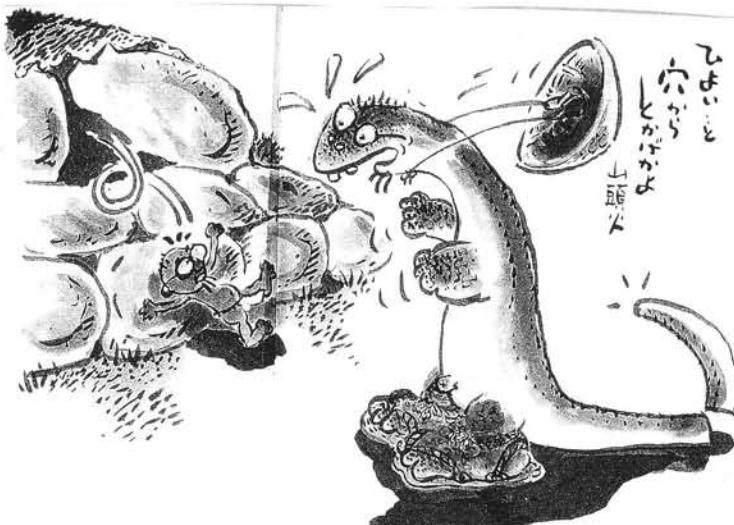
も・く・じ

- | | | | | |
|------------------|----|-------|-----------------|--------|
| • どうしてか伝えたいこと | ① | 2 ページ | • 生産者米面について考えた | 14 ページ |
| • け・い・じ・ば・ん | 3 | | • お便りひと | 15 |
| • 友 魂 | 4 | | • 裏磐梯から山形・姥湯 | 19 |
| • 日米交渉一段落 | 9 | | • トランプ氏「戦争省」に署名 | 22 |
| • エッセイ(健康ということ)他 | 10 | | • 忘れられた日ソ戦争 | 23 |

※掲示板は、3ページに。

～石破さんおろして よりまじなくいるの?～

心はいつも山頭火
泉ゆきを
(日本習字普及会)



題字 故佐村 隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
力ツト 故泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、秋のグリーティング。

裏磐梯から山形・姥湯

ぶんばって出発前夜の8月25日、雑報K13号の印刷原稿がさき上がった。これで安心して猫の手の旅に出かけられる。

8月26日(火)。東京駅のホームで「なすの」を待っていると「ホームで日傘をさすのはちやめください」とアナウンスが。へーーと思って見渡すと、近くで若い女性が日傘をさしている。とにかく暑いのだ。そこへ、折返し列車の車内整備を終えた男性スタッフが通りかかり、腰をかがめて女性に何やら言っている。それでたらかと思ったら、男性が歩み去ると、日傘をさしたまま。

以前、誰かが言っていた。「何か起きないとつまらない」と。今回、その期待は裏切られなかった。

まず、竹中さんが体調不良でドタキャン。楽しみにして自ら計画を練っていただけに、残念なことだろう。来週の山仕事まさに回復するといいが。

次は、静岡から久米さんと向かっている若林さんの車が、栃木県矢板町で故障してしまった。郡山(こおりやま)駅で全員がのりこむ予定だったので困った。久米さんは列車で郡山へ向かい、若林さんはJAF(日本自動車連盟)の救援車の到着を待って、後から追いかけることになった。

一方、当てにしていた若林さんの車(8人のれる)が使えないようになったので、郡山の駅レンタカーで代わりの車の手配を山崎さんがしてくれた。駅レンタには相応の車が無く、小型2台に分乗となった。

予定より少し遅れたが、久米、康江、山崎さんの車と原田さん、ぼくと若林さん(追いついたら)に別れて出発。

郡山から磐梯熱海温泉、中山峠を越え、猪苗代湖が見え始めたところ、そば店「三四郎」で昼食。正士さんのそばと違って更科のさつぱり系だが、おいしかった。ぼくはニシンと野菜の天ぷら付きを頼んだが、そのボリュームにびっくり。歓びきニシンの天ぷらがまるまる2枚入っていて、食べ切れないと。価格も安い。昼食後、猪苗代駅で若林さんと合流。夕方近くなったので、そのまま裏磐梯レイクリゾートへ。周辺の環境に合わせて4階と背は低いが左右に大きく翼を広げ、堂々たる姿だ。

ゆっくり温泉につかり、ビュッフェスタイルの夕食後、お部屋で休む。

8月27日(水)。朝から会津坂下町の「会津中央乳業」へ。ここでの会見・見学の様子は、康江さんに代わって先方と交渉に当たった久米さんが、次のようにまとめてくれました。



二瓶社長とお別れし、工場の売店で買物の後、蔵ヒラーメンの町喜多方へ。ラーメン「はせ川」で昼食。比較的新しい店らしいが、町の中心から離れているのに、入る時も出るとともに20人ほどが外で待つという人気ぶり。ぼくは黄金ラーメンというさっぱり系だったが、隣りのチャーシューがうまさうだった。

同じ喜多方町内の小原酒造へ。「蔵粹くらしき」という店名で、モーツアルトのピアノ協奏曲20番を聴かせて酒造りをすること有名らしい。

姥湯へ行く道は峠越えで、途中、雨に降られた。

めざす姥湯は、20代の頃から行きたかったところ。奥羽本線 峠駅近くから南へ至る峠峰の中腹へ入っていく。昔、峠駅のホームでは、列車が着くと「峠の駅のちらもちへへ」と売りみが声を張り上げたが、いまはほとんど下車する客はない。山形・福島県境の板谷トンネルにさしかかると、電気機関車が「ピィ～～ッ」と悲鳴のような気笛を鳴らしたっけ。

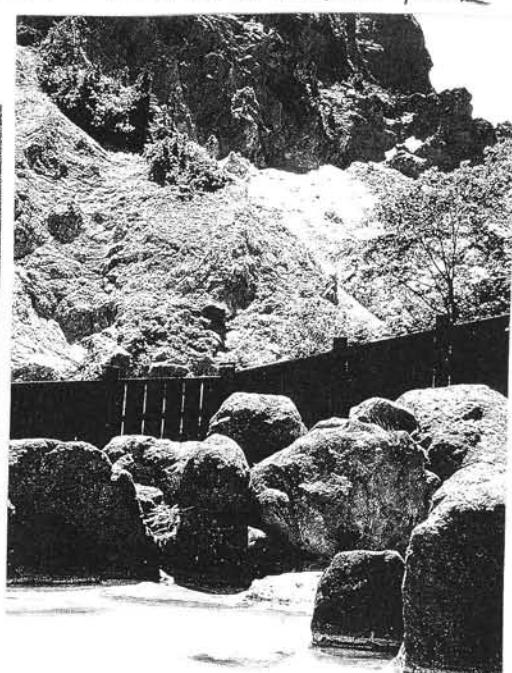
峠駅からは道が細くなり、曲がりくねって傾斜もきつい。レンタカーではなくワゴンが不足し、急坂にさしかかるとほとんど止まりそうになる。運転に苦労したことだろう。

行き止まりにある一軒家が柳形屋旅館(T090-4774-5934)。人気の宿で、紅葉のときなどまず予約は難しい。

宿の建物は、予想に反して立派だった。柱はくサ角の無節。トイレなどの設備もちゃんとしている。(写真は、絵ハガキから)

風呂は、男女別の内湯のほか露天が三つ。手前の一つは女性専用で、上流に近い二つが混浴。その二つも、女性専用の時間帯がある。白湯した湯は単純硫黄泉。強くない硫黄臭がある。

そのロケーションがすばらしい。上流に向



さて左側は、100メートルほどの高さ、岩肌むき出しの断崖。式根島の地鶴温泉に似るが、こちらの方が高さがある。

食事も、こんな山奥とは思えない充分な内容だ。一人で来るといくらになまか聞きもらしたが、今回は一人一泊 15,900円。頼めば山駅から送迎してくれる。機会があったらまた行きたい。ゆ中さんも行きたいことだろ。

8月28日(木)。天候も回復。帰りの道はほぼ下り。板谷峠をぬけて郡山へ。車を返し、駅ビルの中を昼食をとり、「やまびこ」に入る。

大宮で、奈江、久米、山崎、若林さんと別れ、武蔵野線南流山で、原田さんと別れ、帰宅。

終始、心を配ってくれた久米さん、車を運転してくれた原田、山崎、若林さん、どうもありがとうございました。会津中央乳業での見学・懇談も含めて、よい旅でした。

栗城社長にも協力頂きました。

会津中央乳業株式会社

福島県河沼郡会津坂下町大字金上字辰巳19-1
TEL 0242-83-2324 FAX 0242-83-2395

E-mail : aizubeko@aizu.ne.jp

